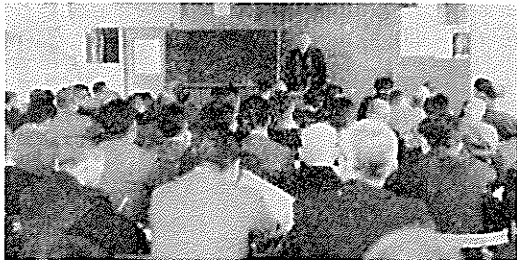


真宗同朋会運動の趣旨徹底を期した「育成員研修会」を実施



訓覇信雄宗務総長を招いて開かれた「育成員研修会」(写真:北海真宗1963年6月号)

北海道50年の歩み—真宗同朋会運動— No. 3

点描

1963 昭和38年

以下に『教学通信』に掲載された訓覇宗務総長の講演要旨の要約を掲載する。

ならぬので御座います。と申しましても、各教区は千差万別で、北海道も教区自体の実状をよく分析した上で、それに適した方策を考えて頂かねばならぬと思うので御座います。

□現実社会の認識

運動を推進して行く上に、今の時代に於いて、宗門以外の実状を精密に分析しその方途を確立しなければならぬのであります。

殊に今日迄の教団の大きな基盤であった日本の農業は非常に、地すべりの速度を以て変貌しつつある。これはこの道の専門家の話を直接伺い、又調査のデータ等に基づいてみても誇張でなしに文字通り日本農村の急激な変貌は神武以来と云われるものであります。

教団のよって以て立っておられる日本農村の急激に変貌しつつある実態の把握と云う事も、教化が滲透していく為、現代に於いては無視出来ない大切な問題であると思うのであります。昭和二十九年と、三十四年の統計を見ると、大体北海道の農村は、関東・東海・北陸・山陽・九州の半分位、新潟か

真宗同朋会運動が提起された翌一九六二年(昭和37)、北海道教区に、「大谷派北海道教区教学委員会」(小川殊諦委員長)が発足した。

教区は、青少年教化委員会や布教団などの組織を有していたが、この教学委員会設置に伴って発展的に解消し、すべての組織が含まれるものとなった。その際に掲げられたのが、「教区の教学興隆は教区人の手で」であり、教区の教学事業を統一して企画調整実施していくことが担われた。

翌年一月には、『北海真宗』とともに、教学委員会名による『教学通信』も発行された。

同年五月には、育成員である住職、また寺院においても真宗同朋会の趣旨等が十分徹底されていないとの認識に基づいて、二泊三日の「育成員研修会」が実施されている。講師には、訓覇信雄宗務総長、出雲路善嗣婦人壮年部長、蓬茨祖運教学研究所長が招かれていた。

が共同農業に従事すると云う事は全然崩壊しておる。老人は一度隠居して、改めて農業の現役に復帰している。

□定量勤労とレジャー

昔の農家や、都会の小僧のような人は、つまり無定量勤労と云われるものであるが、この頃は定量勤労になって来ている。昔の老人は、若い者が明るい中に工場から帰ってきて遊んでいる者を見て勿体ない事をしていると云うが、所謂レジャーの時代である。レジャーが生まれて日が浅いので、これを有効に活用されていないと云う処に今日の問題があると思うのであります。そう云った所から家の機能が縮小され、山の中にバスがつくと、忽ちしてラッシュウが出現するのである。即ち勤労者の移動が甚だしいのであります。今乞は家に属して居らぬと他の仕事をもつ事が出来なかつたが、今は家を離れて独立して職業がもてるようになったのであります。従ってモラルも必然的に変わって、要するに夫婦が中心になってきたのであります。売春に対する罪悪感も非

□近代の地域社会

同時に勤労の場所の移動に伴い、家の機能が縮小されると共に、地域社会の機能が縮小されて、地域社会に奉仕すると云う考えがうすれてきた。例えば部落長と云うようなものは、昔は名誉職として金やひまを問題にせず引受けたものであるが、今はなり手がなくなつて輪番交代制と云うようになってきたのであります。住民の定着性がなくなつて、知らぬ人とも平気でつきあえる、知らぬ人同士が隣人、そう云う所から、顔は分かつていても名も知らぬ匿名的雰囲気と云うものに包まれてきておる。子供が知らぬ人にも警戒しない。子供の誘拐事件が相ついで起るのは当然であると思う程匿名的な地域社会の空気となつてきておるのであります。

□宗門の態勢

とも各教団の基盤である農村の生活意識、環境の変化は極めて前代未聞である事は間違いない。そうした外部の変貌に耐えて、教団内の教化の滲透具合はどうなつておるか。親鸞聖人七百回大御遠忌は、この様な有史以来、崩壊に直

□近代工業社会とはいへ

つまり近代工業社会に急激に変貌いたしておるのであります。成程山の中、田舎では、昔ながらに農家が立っておる。家は同じであるが中に住む人の意識、家族構成の人の実際、勤労の実状並に環境は全く変貌しておるのであります。驚く程変わる事が身を感じられる程の速度で動いて居るのであります。

家を主体に、家の職業としての農家であったのが、家はあるが、中の人は、家をねぐらにして、各々が独立した勤労者になつておるベッドタウンと云う言葉があるが、内地の農家は下宿農家と云われておる。家長が居って家の者

□近代化と人間性

昔の農民は、天の恵み地の恵み